

研修医のための整形外科診療「これだけは！」

高橋正明(編)

〔評者〕河野友祐(済生会宇都宮病院・整形外科学)

私が高橋正明先生に初めてお会いしたのは研修医2年目のときでした。3年目以降の研修について、研修先はおろか専門科に関しても決められず迷っていた私を、とても熱心に、優しく誘ってくださいました。整形外科医として高橋先生の下で研修をスタートしてしばらくの時間がたったころ、先輩の先生方が雑誌『臨床整形外科』に連載を執筆されることになり、夜遅くまで原稿の準備をされる姿を目にしておりました。われわれ後輩医師への指導の後、連載を読むであろうたくさんの若手医師に、少しでもわかりやすく説明をするために丁寧に時間をかけて作業をされていた姿を今でも鮮明に覚えています。

当時の整形外科医は高橋先生を部長とする7人。高橋先生の座右の銘(?)である「愛とチームワーク」をモットーに、緊張感の中にも和やかな雰囲気のある職場でした。高橋先生をはじめ、照屋徹先生、林俊吉先生に、当時整形外科医になりたての私は手術室や外来で、時にはお酒を交えながらたくさんのことを教わりました。その内容がこの本の中にびっしり詰め

込まれています。

初期研修医として別の病院で勤務していた私は、整形外科ローテーションの際、ほかの科では全く聞いたことがないような、たくさんの解剖学的な用語や略語に圧倒され、先生方が話をしている内容が全く理解できませんでした。

しかしこの本の文章は非常に読みやすく、難しい言葉を並べるのではなく、患者さんにもわかるような簡単な言葉で説明されています。専門用語は日本語でも説明されており、略語には必ず説明が添えられています。整形外科医の会話を理解することにも役立ちそうです。救急外来で効率よく診察するためのフローチャートや、こぼれ話のように書いてあるサイドメモで、より一層頭の中に入りやすい状況をつくってくれます。読んでいて高橋先生をはじめとする先生方の優しさまでもが伝わってくるような内容です。

初期研修医時代、救急外来に持っていける程度の大きさで、しかも1冊で十分という本になかなか出会えず苦労しました。何度も時間をつくっては、図書館や自分の机に走って行って調べ物をした



ものです。この本は、とてもコンパクトにまとまっており、当直時にも威力を発揮することでしょう。

本書はこれから研修医として救急外来などで研修を積まれる先生や、医師をめざす医学生、コメディカルの方々にはもちろん、若手整形外科医にとっても知識の確認を図るために、なくてはならない教科書になると思います。1人でも多くの医療関係者に、この本を読んで整形外科について少しでも学んでいただけたら嬉しく思います。

B5 頁212 2009年
定価5,880円(本体5,600円+税5%)
医学書院 刊